

(25) 298

[調査報告]

マールブルク公文書学校調査報告

調査日：2011年 2 月21日 (月)

文 責：土 井 崇 弘

1. 設立当初

(1) 概略

- ・ マールブルク公文書学校は、1949 年に、マールブルクにあるヘッセン州公文書館の一部門として設立。
- ・ 公文書館で働く専門家としてのアーキビストが、日常業務の一部として、公文書学校での講義を担当。

したがって、公文書学校の授業のほとんどすべては、公文書館で働く専門家としてのアーキビストによって担当されていた。

(2) カリキュラム

学部コース

- ・ 3 年間のカリキュラム
- ・ そのうちの半分は、州公文書館で実務教育。
- ・ 残りの半分は、マールブルクで理論教育。

大学院コース

- ・ 3 年間のカリキュラム
- ・ 最初の 6 か月は、ドイツ国内にあるいずれか一つの州公文書館で

働きながらアーキビストの日常業務を学ぶと同時に、様々な種類の公文書館を訪問し講義を受ける。

- ・ 次の 1 年半は、マールブルクで理論教育を受ける。主に歴史。
(詳細については 4. (1) を参照)
- ・ その後に、筆記試験と口述試験を受ける。(詳細については 4. (2) を参照)

2. 変革期

- ・ 1980 年代に入ると、公文書学校の学生とドイツ国内の多くのアーキビストが、これまでの教育を批判。特に批判的となったのが、「ドイツ国内におけるすべてのアーキビストの教育が、一つの州の公文書館の知識と教授能力に依存している」という問題。
- ・ 1980 年代後半になると、以上のような批判を受けて、アーキビスト教育に関する議論が始まった。

注目すべき主張

- ・ アーキビスト教育の専門化
- ・ 大学院レベルのより高度なアーキビスト教育
- ・ 公文書学校の独立組織化
- ・ アーキビスト教育に関する議論の中で、公文書学 (archival science) の授業の分量が増加し、マールブルクにあるヘッセン州公文書館以外から新たな講師陣が招かれた。
- ・ マールブルク公文書学校は、1994 年に、ヘッセン州の独立部門となった。それ以降、すべての授業のうちの 75% が公文書学校のスタッフによって提供され、残りは全ドイツ国内から招かれたアーキビストによって提供された。

3. 現 在

(1) 大学院コース

- ・ 3 年間のカリキュラム
- ・ 最初の 1 年は、州・市・大学など様々なタイプの公文書館で実践教育。
- ・ 次の 3 か月で、行政について学ぶ。
- ・ 最後の 1 年半で、理論教育。(詳細については 4. (1) を参照)
- ・ 歴史教育を重視

(2) Ph.D コース

- ・ 2 年間のカリキュラム
- ・ 最初の 8 か月は、州・市・大学など様々なタイプの公文書館で実践教育。
- ・ その後の 1 年で、理論教育。
- ・ プログラム自体は「大学院コース」と一緒だが、レベルが高い。
- ・ リーダー教育を主眼とする
- ・ 学生の 70～80% は歴史学の Ph.D 取得者

(3) トレーニングコース

専門知識教育を受けていない学生のための「基本コース」や、新たな知識を習得するためのコースなど、全部で 30 コースを設置。

4. 設立当初と現在の比較

(1) 大学院コースにおける理論教育のカリキュラム

1980 年代以前の旧カリキュラム

公文書学：330 時間 = 34%

補助的学問分野 (auxiliary sciences)¹ : 288 時間 = 30%

歴史学 : 270 時間 = 28%

その他 : 84 時間 = 9%

合計 : 972 時間

新カリキュラム (2008 年)

公文書学 : 429 時間 = 32%

行政管理学 (administrative science) : 343 時間 = 26%

歴史学 : 154 時間 = 12%

補助的学問分野 : 402 時間 = 30%

合計 : 1328 時間

(2) 大学院コースの試験

1999 年以前の旧試験

筆記試験 (1 科目 5 時間)

- ・ 中世ラテン文字の複写および古文書学的分析
- ・ 中世ドイツ文字の複写および古文書学的分析
- ・ 近代フランス文書の複写および古文書学的分析
- ・ 近代ドイツ文書の複写および古文書学的分析

口述試験 (1 科目 20 分)

- ・ 公文書学
- ・ 中世補助的学問分野
- ・ 近代古文書学
- ・ 憲法行政史

1 古文書学 (diplomatics) ・ 古代文字学 (palaeography) ・ 系図学 (genealogy) ・ 紋章学 (heraldry) など。

- ・ドイツ各州の歴史
- ・法史学
- ・社会経済史学

1999 年以降の新試験

筆記試験 (1 科目 5 時間)

- ・中世ラテン文字の複写および古文書学的分析
- ・中世ドイツ文字または近代フランス文書の複写および古文書学的分析
- ・公文書法
- ・近代ドイツ文書の複写および古文書学的分析

口述試験 (1 科目 30 分)

- ・公文書学 (公文書法および公文書保存を含む)
- ・憲法行政史に焦点を当てた歴史学

5. コメント

訪問調査時に、以下に挙げる四点の質問に対して回答をいただいた。

マールブルク公文書学校の教育目的 (養成すべき人材像) は何か？
中世の文書だけでなく近代および現代の資料や電子記録をも取り扱う
ことのできる、ジェネラリストの養成を目的としている。

公文書館の目的をどのように理解すべきか？

- ・歴史的視点を重視
市民の歴史
家族の歴史 etc.

- ・行政の視点も重視

行政は何をしてきたか？

その証拠は？

- ・「情報の自由」の視点も視野に入れる
- ・民主主義的視点はそれほど重視しない

アーキビストの社会的評価は？

- ・一般市民はアーキビストのことを知らず、誤ったイメージを持っている可能性は否定できない。
- ・給料はかなり良い。

公文書館およびアーキビストの重要性を、日本社会において、公務員および市民に理解してもらうためには、どうすればよいか？

- ・昔は、ドイツも日本と同じような状況であった。
- ・公文書館をオープンにすることが重要。
- ・政治家および行政担当者に、公文書館およびアーキビストの有効性を説くことが重要。

6. 参照資料

訪問調査時の配付資料（説明資料、パンフレット 等）

筆者による聴き取りメモ

（この調査報告は、2010 年度中京大学特定研究助成により実施した調査研究の成果の一部である。）